

観ていただければと思う。

(佐藤委員)

子どもが保育園から小学生のときは番組をよく観た。

中高生になると親も学校で何をやっているのかあまり知らないので、番組で観せてもらえるのはありがたい。中高生を取り上げるのは学校の裏側が見られていい。親が参加できるのは体育祭、文化祭ぐらいしかいかないから。

(上野委員)

みんな知りたいんだと思う。親の立場からは、中高生が学校でどんなことをしているのか、知りたいと思う。

(齊京委員)

高校生が何をやっているのか、高校生が考えていることがわからない。学園祭も3年に1度で、行けないことも多い。高校生や大学生の活動がテレビに映っていたらいいと思う。

(上野委員)

高校生をスターとして扱ったらいいのではないか。「あの高校が強いらしい」とか、「あのこがカワイイ」とか、そういう町の噂になるような惹きつけ方があっても面白いと思う。高校生も張り合いが出ると思う。

(西村会長)

斬新な企画アイデアにすぐ取り組めるのも地域メディアならではの。

高校生に任せてやってみたら、高校生にあって大人にない視点とかが見えてくるかもしれない。対象からにじみでてくるような情報を集められたらいい。

(池田副会長)

職場体験の受け入れを事業所をお願いしている立場だが、億劫がられて、なかなか手があがらない。こうやって映像で中学生が取り組んでいる姿を紹介してもらうことで、事業所側も、どんな体験をどこまでさせたらよいか参考になって、受け入れやすくなると思う。

・朝の情報番組「おはよう上越」について

(紹介内容：電話ゲスト、小学校の給食)

(佐藤委員)

冬の間はライブカメラを見て除雪の参考にさせていただいた。私は7時前には家を出てしまう。雪が降ると通勤通学を早める傾向ある。情報提供は今後も続けてもらうとありがたい。

(上野委員)

冬の間視聴していたが、画面上の空いたスペースに、雪の情報をのせてほしい。リアルタイムでどの時間でも雪の状況がみえていい。ほしい情報がないとすぐチャンネルをかえてしまう。いまはスマートフォンが大事で、朝はトップニュースをさっとチェックして画面を変えてしまう感じ。番組は画面の展開も遅いし、見る人の対象にもよるが、忙しく作業しながら観る人には、画面だけで訴えてくれる番組だといい。いま世の中で起きていることが、パッとわかるような仕組みがあるといい。インターネットは欲しい情報を選べるが、テレビはだらだらと情報が流れていく。トップニュースがパッと画面に出ているほうが忙しい人にはありがたい。

(西村会長)

年代に合わせるのが重要なかもしれない。画面上の工夫はしてみる必要がある。

(上野委員)

天気情報もいつも出ている状態がいい。

- (宮澤社長) 朝忙しい時にだらだらとは観てられない。J C Vが放送しているのは映像情報で、活字ではない。今どうなっているのか、状況を観てもらおうのが一番だと思ってこの番組を始めた。もっとやり方はある。無言でもいいから、ライブカメラで多くの場所を映す。地域の人には、それだけでも情報が伝わる。天気予報の天気を聞くよりも、視聴者が情報カメラを見て天気がわかればいい場合も。お天気の情報は専門チャンネルがあるのだから、この番組ではカメラ（ライブ映像）を増やしたほうがよいかもしい。
- (池田副会長) 他の番組とかぶらないような配慮があるから、この番組ではそれとの違いを出したいのだろうと思う。
- (上野委員) 給食レシピなどはインターネットやSNSへ誘導するようになっているか？
- (山岸) レシピは一週間分をホームページにアップしている。
- (上野委員) 他の局などの番組は、ネットと連動している。ネットのほうが拡散力はある。関心のある全国の人に地元の情報を観てもらえると思う。
- (山岸) SNS等との連携が今後の課題。
- (上野委員) M J インフォメーションに出演した人が映像をネットにアップしていたりする。地域の話題とSNSは相性がいいと思う。

・生活情報番組「すまいるONE」について

(紹介内容：夏バテ解消しましょう 7月5日～放送)

- (齊京委員) (出演してみて) 意外と観てくださっている方が多く、番組後の反響あった。「観ましたよ」とか「面白い番組作っているんですね」とか、観ていただいているんだと知った。タダの料理番組で終わらないところがいいと思う。
- (西村会長) 反響があることはうれしいこと。
- (小林委員) 最近は田舎の料理を作らなくなっている。そういうのを伝承する意味で、紹介してもらえると嬉しい。
- (上野委員) 面白い。これからのクオリティーだと 普通に視聴できる。
このクオリティーを保って、視聴層を変えたバリエーションがあればいいと思う。アイデアしだいで名物番組がいくつでもつくれそう。
- (佐藤委員) 男性はなかなか観られる時間がない。
- (西村会長) 発想や方向性を広げていくことはできると思う。

(2) 上半期の特別番組について

(紹介内容：春の高校野球大会、上越まつり高田祇園勇壮神輿宮入)

- (上野委員) 高校野球は普通に、しっかりと撮れていて、カットもちゃんとしていてみやすかった。

高校野球はいいフォーマットだと思う。順番に選手が紹介され、順繰りで巡ってくるので話題になりやすい。録画する甲斐もある。ニュースL i N Kに出演した選手と関連付けて紹介してあげたらいいのではないかと、高校野球だけではなくて。

- (池田副会長) 開票作業の生中継は難しいと思っている。最初は動きがあるが、結果が出るまで間延びする。間延びの工夫が必要。
- (上野委員) 生中継に適した内容と、そうでないものがあると思う。テレビのチャンネルを変えられるのが一番こわいと思う。間延びすると変えられることも多くなる。歴史をひもとくVTRなどを挟んで放送するとか、工夫がないと生中継は難しいと感じた。
- (西村会長) 祭の中継などは、視聴者に「どここの誰々さんが映っている！」とってもらえる。こういったのは、地元ならではの。
- (宮澤社長) 中継をすぐできるようにしておかないと、災害時に動けない。そのために多く生中継をするようにしている。
- (上野委員) スポーツにストーリー性がうまれるといい。熱闘甲子園など。野球好きでなくても観られる。ストーリー、ドラマをピックアップできるといい。
- (宮澤社長) マラソンはとくにそう。ストーリー、ドラマが必ずあるので、そこをピックアップする。
- (上野委員) 大会にむけて2、3週間前から選手に密着する特集を組んだりとか。
- (西村会長) 祭の生中継を束ねて、それを特別番組にするような企画もあってもよいのではないかと。
- (佐藤委員) リアルタイムでは観ても、再放送は観ないような気がする。
- (宮澤社長) 祭は映像で観て楽しむ人と、参加しなきゃ意味がないという人にわかれる。
- (西村会長) 謙信公祭などは、映像で観た方がわかりやすい。
- (上野委員) 花火の生中継は、長岡くらいの規模だといい。

(4) その他（全体を通して意見）

- ・ 地域密着メディアがある上越市はめぐまれている。頑張ってもらいたい。
- ・ 独自の取り組みで上越を発信していくメディアであってほしい。

8. 閉会（齋藤俊幸）